

園長だより NO49

新入園児を迎え、にぎやかな保育園、子ども達の声が庭には響き、心地よい場所に感じられる保育園です。

保育園から一步出ると、現実とは異なります。目に見えぬウイルスに脅かされながらも日々、生活しなければなりません。

昨日、都市部での急速に拡大している事態を受けて安部総理大臣は東京など7都府県を対象に「緊急事態宣言」を出しました。夜の記者会見にて宣言を行い理由や具体的な措置を説明し国民に協力を呼びかけました。

いち早く反応した渋谷区

4月6日、渋谷区は4月12日までの家庭保育の協力要請を感染拡大から5月6日までその取り扱いを延長しました。国の緊急事態宣言が出された場合はその期間、保育園は臨時休園となると重ねて願いを出した。

※世帯全員、警察官、消防官、医療従事者の家庭は保育をするという、それ以外でも保育が困難な方は相談を受けつけるという。

緊急事態宣言後の保育はどうなるのか？

渋谷区への対応や保育所の保育規模縮小などメディアで伝えられているので数名の保護者から「緊急事態宣言後の保育はありますか」と問い合わせがありました。現時点では緊急事態宣言が出て開園し子ども達には普段と変わらぬ生活が続くでしょうとお答えしました。ただそれは

あくまでもこの地域で感染拡大がないという前提での返答です。仮に職員、園児に感染者が出たら、行政の指示に従い必要な期間の休園措置を講じなければなりません。

また乳幼児について特段の配慮が必要な場合は家庭保育の依頼や保育時間の短縮などの対応をお願いするケースも出てくると考えなければなりません。

保育従事者も疲弊している

ここ数カ月の保育士(保育園)の働きを(状況)をメディアで取り上げることは少ない、マスクや消毒用薬剤の不足などは取り上げられていたが働き(状況)にスポットをあてることはありません。多くの従事者は疲弊しているが子ども達と生活することはこの上ない幸せである。

大変な仕事と言われていても子ども達の純粋な姿、笑顔に支えられ、それぞれが自己のやりがいを見つけている。2月下旬より、新型コロナウイルスの感染防止の対応で数倍もの神経を使っている。安心、安全な生活を維持していこうとすれば当然のことであるがやはりしんどいこともある。

他園では小学校の休校にともない我が子の行き場がなく複数名、欠勤する事態が続いたという、数週間のことからみんなでカバーしようと乗り切ったものの再度の休校延期、職員が疲弊し体調を崩し、保育の担い手が不足するという悪循環に園長さんは頭を抱えているという、まさにぎりぎりの状態で保育にあたっている。保育園は「働く親を支える 支える使命ある」と言う

が国はこの現状を把握しているとはいいがたい。国の緊急事態宣言後はテレワークや在宅で仕事をしている保護者に数時間でも早く迎えに来ていただくことを今後、保護者に願い出るといった。

私たち保育者が倒れてしまえば子どもの行き場がなくなる、なんとか保育士の疲弊した状態を緩和しなくてはならない。

明日は我が身か、我が園か他園の苦しい実情を知り、不測の事態に備えなければならないと痛切に思いを持つことになる。

できることをしっかり やりましょう！

千葉市の熊谷市長は新型コロナウイルスに関する市長のメッセージになかで専門家会議にふれ、学校について「現在の知見では子どもは地域において感染拡大する役割をほとんど担っていないというエビデンス情報を得ている・・・」という子どもに感染させないことが大切、感染拡大については私たち(大人)が担っていることは誰もが理解している。

では保育園でできることはなにか 本場に基礎的なことの繰り返しです。

- ① 手洗いの励行
- ② 咳エチケット
(大人の園内でのマスク着用)
- ③ 密をさけること
(密閉 密集 密接 この3密を避ける)
- ④ 日々の健康チェック
(十分な睡眠 休息 栄養摂取)



緊急事態宣言が出たことにより保育園ではさらに衛生管理の徹底をお願いすることになります。又上記のことに加え、園内での行動に制限もあります。

- ・登降園後はすみやかに帰る。
- ・大きな声や密接での会話はひかえる
など

本来、保育園は言葉のキャッチボール、コミュニケーションが互いの関係性を構築し子どもの理解に大きなウエートを占め、積極的に進めていくことが大切な場所です。しかし、この状況下では当面、自粛していくことは致し方ないことです。

今後の課題は子ども達の姿、育ちをどう保護者の皆様に発信し希薄なコミュニケーションを埋めていくかにあります。

緊急事態宣言を受け、感染防止の新たな施策も打ち出されてくると考えます。保育の運営にも保護者の皆様の理解と協力をお願いすることは今後も出てきます。

事態の急変や行政の休園、保育縮小の要請がある場合を除き、現時点では保育園は開園し子ども達の生活の場を保障することを継続していきます。

事態が急変しないようにそれぞれが感染防止の意識を持ち続け、できることをやっていくしかない。

(園長 廣部 信隆)